

# 消防本部庁舎等整備事業について

平成26年度から進めている本事業は、①消防本部庁舎の整備、②消防通信指令システム設備の更新、③保土ヶ谷消防署の移転整備を行うものであり、それぞれの進捗について、報告します。

## 【①消防本部庁舎】

消防本部庁舎整備は実施設計を終え、建築概要がまとまりました。  
現保土ヶ谷消防署の移転、解体後の令和2年12月から、消防本部庁舎建築工事に着手する予定です。

### 1 建築概要等

- (1) 建築規模等  
所在地：保土ヶ谷区川辺町2番地9  
敷地面積：約 3,250 m<sup>2</sup>  
建築面積：約 2,340 m<sup>2</sup>  
延床面積：約 14,830 m<sup>2</sup> (←現行：約 8,600 m<sup>2</sup>)  
(新築棟：11,490 m<sup>2</sup>、別棟：429 m<sup>2</sup>、既存棟：2,911 m<sup>2</sup>)

- (2) 構造概要  
新築棟（本部機能等）：地下1階/地上7階/塔屋2階  
(高さ約31m) 1階柱頭部中間層免震構造  
別棟（倉庫等）：地上3階  
(高さ約15m) 耐震構造  
既存棟（特別高度救助部隊執務室等）  
(高さ約24m)：地上5階/塔屋1階  
耐震構造

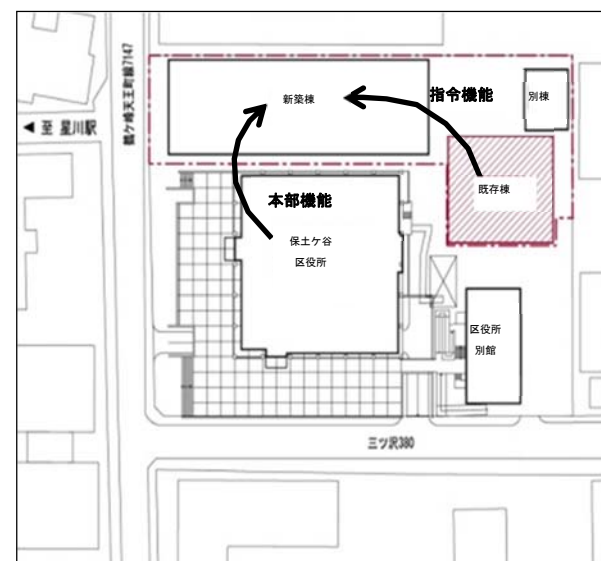
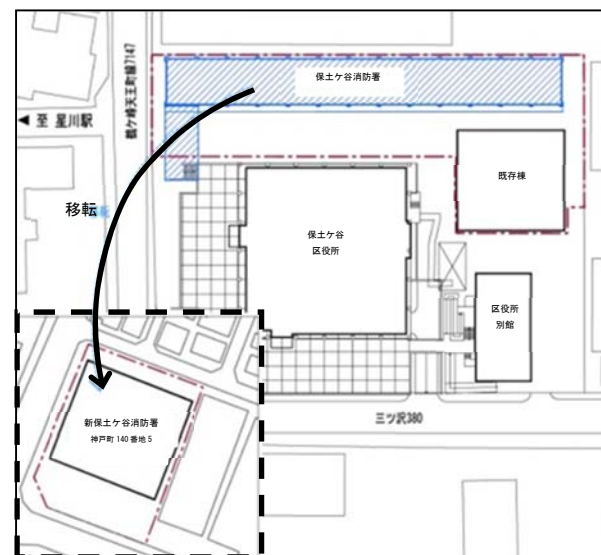
<消防本部庁舎完成予想図>



### 2 整備手順

【平成30年11月～令和2年11月末】  
保土ヶ谷消防署を神戸町に移転整備し、  
現保土ヶ谷消防署を解体します。

【令和2年12月～令和6年度】  
現保土ヶ谷消防署解体後の跡地に、消防本部庁舎の新築棟と別棟を整備し、新築棟に本部機能と指令機能を移転させます。その後、既存棟を改修し、全ての棟の運用を開始します。



【参考】事業費（実施設計終了時点の積算額）

約180億円

(消防本部庁舎整備関連費、保土ヶ谷消防署解体工事関連費、消防通信指令システム設備更新費等)

### 3 主な特長

#### 【消防機能の継続性強化】

- 水害対策**  
①計画規模の浸水に備え、止水板、止水扉及び水密マンホールの設置  
②最大規模の浸水に備え、司令センターや機械室、受水槽及び非常用発電機など、重要設備の上階設置
- 震災対策**  
③免震構造の庁舎に司令センターなどの指揮・情報収集機能の整備  
④星川駅側と国道16号線側への車両動線の2経路確保  
⑤非常用発電機や空調機など、重要設備の二重化  
⑥7日間活動できる燃料備蓄や、受水槽、雑用水槽、緊急排水槽の整備

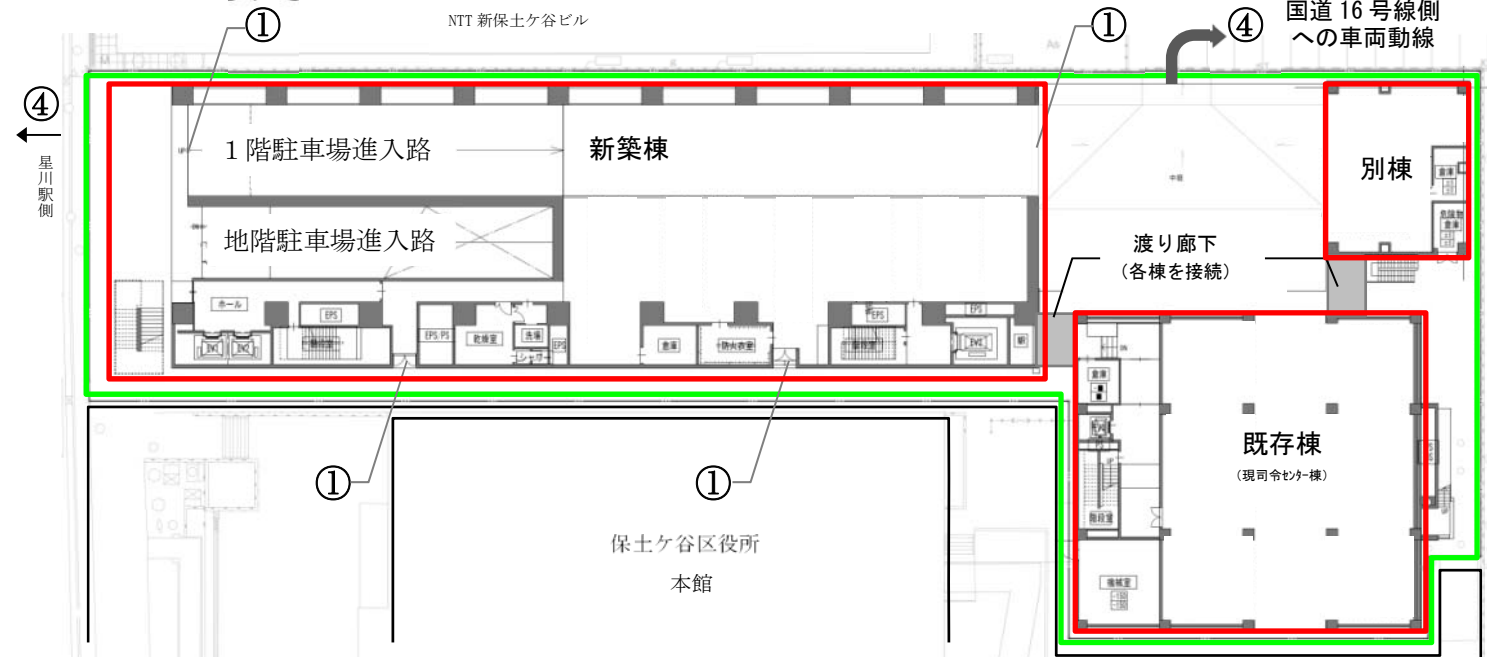
#### 【迅速かつ機動的な消防本部機能の強化】

- ⑦緊急消防援助隊を受け入れる飛行場外離着陸場や受援室の整備  
⑧司令センターや消防本部会議室・運営室の一体的整備  
⑨災害情報の収集や集約、関係機関との調整を図る作戦室を事務フロアに整備

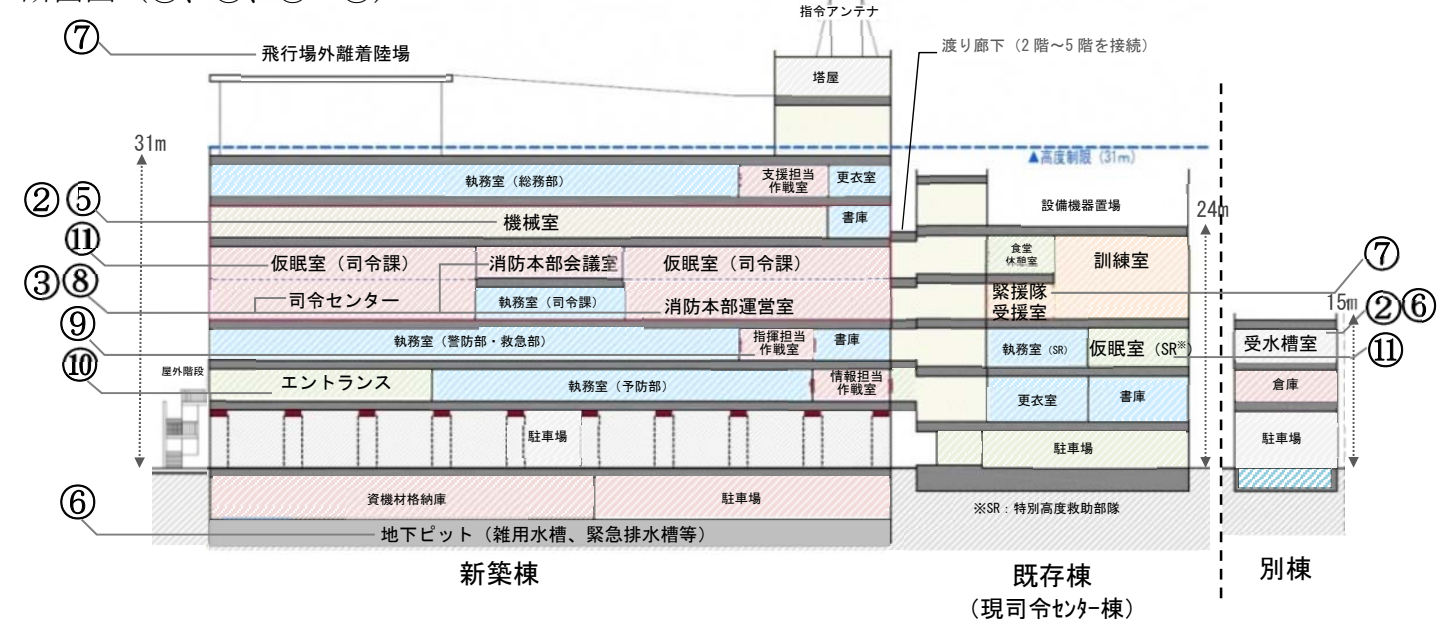
#### 【執務環境の改善】

- ⑩セキュリティー対策を強化するため、入退出管理システムの導入  
⑪当直環境の改善として、個室化した仮眠室やシャワーブースの整備

<平面図(①、④)>



<断面図(②、③、⑤～⑪)>



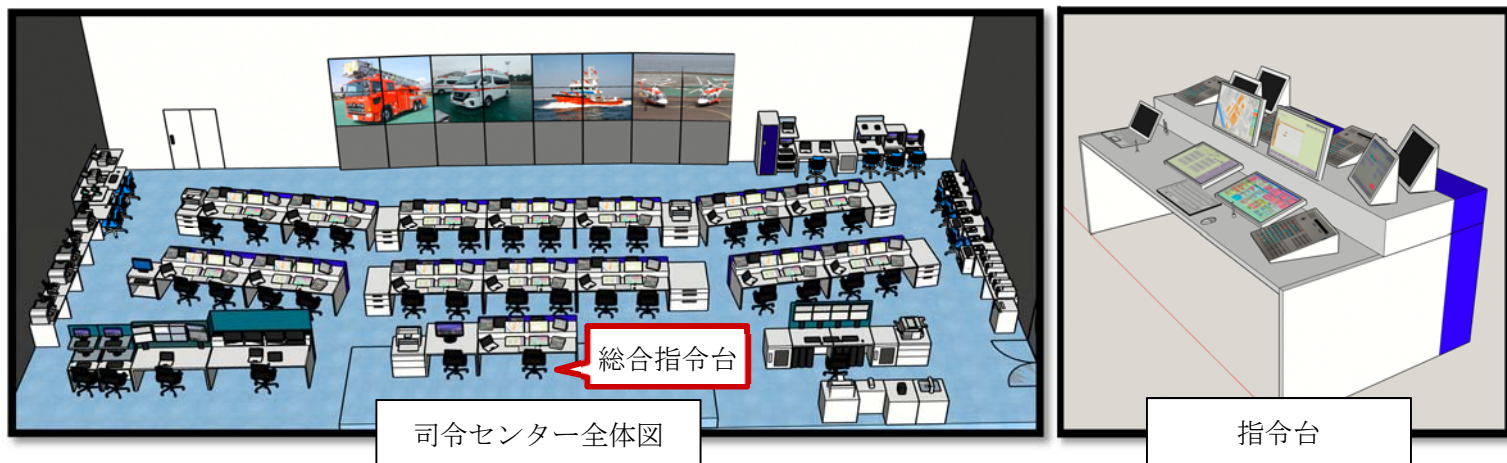


## 【②消防通信指令システム設備】

消防通信指令システム設備更新は実施設計を終え、整備概要及び主な機能等がまとまりました。令和2年10月から消防通信指令システム設備の更新工事に着手する予定です。

### 1 司令センター完成予想図（イメージ）

※計画のため変更になる可能性があります。



### 2 整備概要

司令センターを免震構造の新築棟内に配置するとともに、消防通信指令システム設備を更新することでシステム機能の強化を図ります。また、司令センターに隣接する消防本部会議室及び運営室等と各種カメラなどの映像情報を共有し、指揮命令系統の強化を図り、災害対応力を向上させます。

### 3 整備手順

令和2年10月から消防通信指令設備の更新工事に着手します。新築棟の完成後、新たな司令センターに消防通信指令システム設備の整備を開始し、令和5年度中までにシステムの機能を強化するとともに設備更新を完了します。

### 4 主な特長

#### 【システム機能の強化】

- ・増加する119番通報に備え、指令台の増設及び操作性の向上
- ・大地震などの大規模災害時に備え、メインコンピュータ及び関連設備の対応能力の向上
- ・職員育成のため、指令台への訓練機能の整備
- ・指令管制員間の音声通話機能の強化

#### 【指揮命令系統の強化】

- ・消防本部会議室及び運営室等で各種カメラなどによる情報を共有するための映像設備の整備
- ・作戦室などの主要諸室で災害情報を共有するための消防無線及び映像モニターの整備
- ・周辺建物の高層化に対するヘリカメラ受信装置の機能の強化
- ・庁舎内での情報伝達を円滑にするためPHS電話を増設



## 【③保土ヶ谷消防署】

平成30年11月から建築工事を進めていた保土ヶ谷消防署が、令和2年1月31日にしゅん工しました。

### 1 建築概要

- (1) 建築規模等  
所在地：保土ヶ谷区神戸町140番地の5  
敷地面積：1,947.95㎡  
建築面積：1,156.14㎡  
延床面積：2,626.78㎡
- (2) 構造概要  
階数：地上3階（高さ17.85m）  
構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造（耐震構造）  
建物軒高：17.85m



### 2 事業費

約23億円（工事費、工事監理費、設計費、用地取得費等）

### 3 主な特長

#### 【災害時の消防機能の継続性の強化】

- ・震度7程度の地震が起きても施設を使用できるよう、耐震基準の1.5倍の耐震構造を採用
- ・計画規模の浸水に備え、1階床面を高い位置に設定
- ・最大規模の浸水に備え、止水板の設置や事務室、機械室及び非常用発電設備の上階設置

#### 【消防団と消防署の連携体制の強化】

- ・大規模災害発生時における活動体制を強化するため、消防団の本部運営室や器具置場などを整備

#### 【将来の男女比率の変化に対応できる施設】

- ・男女の配置人員の数に応じて、更衣室の男性エリアと女性エリアの広さを変えられるよう可動式間仕切を採用
- ・男女のエリア分けをしない個室仮眠室の整備

### 4 運用開始日時（予定）

令和2年2月25日（火）午前8時30分から

### 【全体スケジュール】

消防本部庁舎は、新築棟及び別棟が令和2年度に着工して5年度に完成し、既存棟の6年度の改修終了をもって、全ての棟の運用を開始する予定です。

	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)	2年度 (2020)	3年度 (2021)	4年度 (2022)	5年度 (2023)	6年度 (2024)
保土ヶ谷消防署	基本計画等	基本設計	実施設計	土壌汚染対策工事	新築工事	運用				
保土ヶ谷区役所改修					インフラ切り直し等	R2年度以降の保土ヶ谷区役所改修は、解体工事・新築工事・既存棟改修工事の中で行います。				
保土ヶ谷消防署解体						解体工事				
本部庁舎新築棟・別棟	基本計画等		基本設計	実施設計			整備工事		一部事務機能の運用	
消防通信指令システム設備更新				基本設計	実施設計		指令設備更新工事		新指令システム運用	
既存棟改修（現司令センター棟）	基本計画等		基本設計	実施設計			実施設計		改修工事	

※現時点でのスケジュールのため、変動する可能性があります。